

体外受精・顕微授精の治療方法と助成対象範囲

治療内容	採卵まで			採精 (夫)	受精 (前培養・媒精(顕微授精)・培養)	胚移植						妊娠の確認 (陽性・陰性の確認) (胚移植のおおむね2週間後)	助成対象範囲
	薬品投与 (点鼻薬) (自然周期で行う場合もあり)	薬品投与(注射) (自然周期で行う場合もあり)	採卵			新鮮胚移植		胚凍結	凍結胚移植				
						胚移植	黄体期補充療法		薬品投与 (自然周期で行う場合もあり)	胚移植	黄体期補充療法		
平均所要日数	14日	10日	1日	1日	2~5日	1日	10日	7~10日	1日	10日	1日		
A 新鮮胚移植を実施													助成対象範囲
B 凍結胚移植を実施													
C 以前に凍結した胚を解凍して胚移植を実施													
D 体調不良等により移植のめどが立たず治療終了													
E 受精できずまたは、胚の分割停止、変性、多精子受精などの異常受精等により中止													
F 採卵したが卵が得られない、又は状態の良い卵が得られないため中止													
G 卵胞が発育しない、又は排卵終了のため中止													対象外
H 採卵準備中、体調不良等により治療中止													

※1回の治療とは、AからCの場合、妊娠の確認までとなります。DからFの場合は、治療終了又は中止時までとなります。